

# テラカッ!

## 第一〇回 福岡県糸島市・龍国寺

龍国寺のある福岡県糸島市は福岡市の中心部から車で四〇〜五〇分ほどの郊外に位置し、人口一〇万人、北は玄海灘、南は背振山系に挟まれた自然豊かな田園風景が広がっております。数多くの古墳を有し、世界最大級の銅鏡「内行花文八葉鏡」（国宝）が出土したところでもあり、近年注目を集めております。

今回取材させていただいた龍国寺の皆さま（住職・甘蔗<sup>かんじや</sup>和成師、徒弟・健仁師、寺族・理愛氏）は「このお寺の良さを守っていくためには、この地域の周辺環境を守っていかないといい

ない」と考え、布教活動に取り組んでおられます。

**住職** 龍国寺の歴代住職には、享保の飢饉の際に半年間で延べ五〇〇〇人の人々を助けた住職。また隣村同士の水争いを住職の機知によって収め、自ら築いた「井手」により今も双方の田畑約一〇〇町歩を潤しています。地域のために知恵を絞り工夫してこの地に根付いた先人の思いを引き継いでいきます。

**健仁師** 自然豊かなこの地ですが、これまで残土処分場をはじめ、核の最終

処分場や地下一〇〇メートルに直線三〇キロのトンネルを掘るリニアコライダーの計画など毎年のように自然を脅かす事業が浮上した時期がありました。その中でも二〇〇五年に起こった企業誘致の話は目の前の田んぼでの出来事として特に衝撃的なものでした。

**住職** その内容は田んぼ一万二〇〇〇坪もの広大な土地を町が買い取り、誘致した企業が工場を建てるというものでした。この計画を初めて聞いたときは、この豊かな田園風景が工場によって一変してしまうことを怖れました。しかし、景観を守ることだけでは多くの方の理解は得られません。そんな中、この地に工場を建てる目的はここに流れる「清き水」を大量に使うことだと分かったのです。「水」は私たちがとっては「いのち」そのものです。水は飲料水だけでなく、洗濯などに使う生活用水、中でも一番多く水を使用するのは農業用水です。「水」なくし



田んぼコンサート

ではお米も野菜も収穫できません。渇水でもあったこの年、農家が立ち上り最終的には企業側が撤退するという形で決着が付きました。このとき始めたのが「田んぼコンサート」です。――コロナ禍で休止中とかがっておりますが「田んぼコンサート」について

詳しくお聞かせください。

理愛氏 「田んぼコンサート」は私たちのいのちを育んでくれる田んぼが無事に残ったこと、そして今年も豊かな実りを与えてくれたことへの感謝を込めて毎年開催しています。初めてのコンサートは工場誘致の撤退が決まった二ヵ月後、田んぼを会場に企画しましたが、雨が降りだし急遽本堂での開催となりました。そのときは二〇人のご参加をいただき、車が止められなほほどでした。以来コンサートは本堂で開催しています。

三回目以降になると、企画を手助けしてくださる方も現れ、全体が二部構成に。第一部は「これからの生き方や暮らしについて考える」講演や対談、第二部にコンサートという形です。

――企画を手助けしてくださる方はどういう方ですか。

理愛氏 一人は仏教講座に参加されていた主婦の方です。以前は青年海外協

力隊として海外で活動していた方です。もう一人は農業をするために首都圏より移住し、現在はリースタールを開いている方です。この方々の協力でコンサートの内容だけでなく、会場装飾や飲食ブースも充実し、幅広い世代の方に参加いただいています。――特に気をつけていることはありますか



田んぼコンサート飲食ブース

か。

**健仁師** 「生きることとは食べることに

食べることは生きること」、「農」と

「いのち」など「環境」「平和」「生き方・暮らし」「伝統芸能」「祈り」

をテーマにしています。

―「田んぼコンサート」は出店もあるということですが、どのような形でしょうか。

**健仁師** 飲食は庫裡のお座敷を使っています。特等席は江戸時代に作られた「鉄肝園」を眺められる席でしょうか。本堂と庫裡の間の渡り廊下はCDや書籍などの物販コーナーです。出店の内容はスタッフにお任せしていますが、飲食はすべてオーガニック（無農薬）で身体に優しいものになっています。

―「田んぼコンサート」を開催しての反響はいかがでしょう。

**健仁師** 現在はこの周辺のお寺や様々な場所でコンサートが開かれています

が、以前は珍しかったと思います。コンサートをきっかけに出会った方が沢山おり、そのご縁は今につながっています。特に小さな子どもを連れてお母さんも聴きに來ることができるとコンサートでしたので、お母さん世代に喜ばれました。

またここでの出会いから朝晩の坐禅会をはじめ、様々な催しの参加につながっています。そして新たな企画の協力者としてご縁が巡っています。

―檀家の方を対象にした行事や企画で特に力を入れているものについて教えてください。

**健仁師** 先の工場誘致や田んぼコンサートにも共通する話ですが、これからの世に「残したいもの」「忘れてはならないもの」を主題に、「手仕事」や「技術」について、コンサートや上映会を通して檀家の皆さまにもご紹介しています。

また「両彼岸とお盆の展示」にも力

を入れていきます。年末年始とこの三つの時期はとも多くの檀家の方やご親族の方がお参りされます。せっかく来てくださるのであれば、何かひとつでも心に残るものをお渡しできないかと思ひ、様々な展示を行っています。

例えば、檀家の方が撮影したこの村の昭和三五年頃の写真展を開きました。この頃までは牛を使って田んぼを鋤いていたのが耕運機に変わり、それと共に牛を飼わなくなるほど日々の暮らしが大きく変化した時期です。「共同風呂の改修」「道普請（道の整備）」「わらじ作り」等々、白黒の写真を全紙サイズに伸ばし、一〇〇点を展示しました。中でも「河川改修」の写真は、「御先祖さま」の供養をすることの意義を感じづらい若い世代の方にも響くものがあると思ひます。農業のない農閑期（冬期）にスコップひとつを手にもち、村人総出で深い溝を掘って川がつくられました。今見れば



春のお彼岸展示会「アイヌ刺繍展」

細い川に見えますが、この川を整備するのにどれだけのご苦労があったことでしょうか。その上に私たちの今の暮らしがあります。川だけではなく、道も田んぼも何もかもが先人たちからの贈り物ではないかと話しています。

お寺の奥にしまっていた民具を展

示したこともありました。「ごはんじょうけ」「斗升」「つづら」「手箕」「しょうけ」などのわら細工や竹細工です。展示してみると、檀家の方から使い方や当時の思い出などをうかがうこともできました。

今年の三月は「四辻藍美 アイヌ刺繍展」を開催しました。細やかで繊細な刺繍の技だけでなく、その模様の意味、そしてそこに込められた祈りを感じられる作品でした。このときは一般の来場者だけで六〇〇人程度がお見えになりました。

そして八月は「与那国島のクバの葉を使った民具と沖縄戦の写真展」を開きました。直径一メートル五〇センチほどの大きなクバの葉を使った数種のかごや水くみ、団扇など忘れてはいけない技術の数々。そして沖縄平和祈念資料館からお借りした沖縄戦の写真と、沖縄戦で亡くなった先代住職の大成方丈さまの現地からの手紙などを展



お盆展示会「沖縄戦写真展」

示しました。手紙は箸袋の裏に書かれており、亡くなる四ヵ月前のもので遺言と思われる。内容は両親や妻子を気遣うものばかり、親の愛、覚悟、責務といったことがにじみ出ており、何人の方が涙ぐんで見ておられました。



田んぼコンサートスタッフと出演者

前列右から3人目：和成師、2列目左：健仁師、2列目右から3人目：理愛氏

―最後に、これから寺院での布教活動に取り組む方に向けて、助言があれば教えてください。

健仁師 無理をしないことだと思います。また檀家の皆さまにきちんと説明できる催しであること。そして協力者がいれば幅も広がると思います。ただし、「必要なこと」はひとりでする覚悟も必要ではないでしょうか。

最初に住職が話したように、享保の飢饉の際に人々を助けるために奔走した住職や隣村の水争いを収めた住職、また受刑者と共同生活を送った住職等の思いを引き継ぎ、この地域が安心して暮らしていけるよう、「清き水」がいつまでも湧き出てくれることを心から願っています。

(聞き手・文構成／全国曹洞宗青年会  
会長 田ノ口太悟)

萬歳山龍国寺 ご一家

住職・甘蔗和成、寺族・甘蔗多恵子、  
徒弟・甘蔗健仁、寺族・甘蔗理愛

【龍国寺で開催している行持・催し】

坐禅会 夜の坐禅会(毎週土曜日)

朝の坐禅会(二〜三回)

みんなで唱える楽しい御詠歌(毎月)

田んぼコンサート

(コロナ禍以降、休止中)

自主上映会

(いとしまリトルシアター)

クラシックコンサート

お彼岸・お盆の展示企画

本にまつわる催し

「元図書館長のお話し」

「えほん寺びり」「お話し会

「おとなの寺子屋」等々